

## わが思想と経済学

コルナイ・ヤーノシュ

聞き手 盛田 常夫

## 新たな構想への出発

盛田 七一年に大著『反均衡』を出版されてから、研究テーマの転換が生じた。その新たな構想が八〇年に『不足の経済学』として結実するわけですが、それへの過渡期にどのような研究がなされていったのでしょうか。

コルナイ その一つはすでにお話した『急成長対調和的成長』だったわけです。もう一つは東側のシステムの数学的なモデル化で、これは後に数学者のマルトシユ・ペーラと一緒に『非價格的制御』（八一年）にまとめられました。

いきました。「効率性と社会主義倫理」と題するものがそれです。\*

盛田 それは日本語にも翻訳されている。

コルナイ そこで、社会主義の倫理原理と効率性がはたして両立するものか否かの問題を提起しました。市場社会主義を擁護する人々は、これが両立できると考えるわけです。私はこれをナイーブな改革者と考えています。私の主張は、その両者のあいだに融和できないコンフリクトがあるというものでした。一方を立てれば、他方が立たないという。その事実と対峙しなければならぬ。

盛田 七〇年代に入って、明らかにコルナイ教授の関心が変化した。『反均衡』から連続するもの、非連続なものは何でしょうか。

コルナイ 「圧力」経済と「吸引」経済のうち、後者の経済をより詳細に描こうと試みた点で、連続性があります。他方、『反均衡』から「旅立ち」をしようと試みた点で、非連続的なのです。つまり、理論の批判のような理論史に首を突っ込むことはしたくなかったという意味で。

盛田 その「旅立ち」をもう少し詳しくお話しただきたい。

コルナイ 自分のなかで、いったい何が自分の批判的な直感

盛田 読者の誤解のないように付け加えれば、このモデル化は計画化モデルではなく、現実の社会主義経済がどのように動いているかを数学的にモデル化したもの。

コルナイ その通りで、市場が機能しない経済がどのように動いているかを調べるモデル分析でした。その規則性や特性を調べたわけです。\*

盛田 ということは、さまざまな側面から社会主義経済がどう機能しているのかを研究するようになった。

コルナイ その点で、今から振り返って重要だと思ふことがあります。最初にインドに講義に出かけ、二カ月ほどそこにいました。その後、アイルランドに滞在して一つの講演をおこな

となつていのかをはっきりさせたかった。どうして、不満なままにいろのかをはっきりさせたかった。そこでもっとも重要だと感じたことは、いったい自分は現実の経済をどのように見ようとしていのかをはっきりさせることでした。

盛田 そこから、社会主義経済の現実を叙述しようと考えた。

コルナイ そう、その時から社会主義経済に取り組み、先にお話しした観点から社会主義経済を見ようとしたわけです。

盛田 そして、社会主義経済の「不足」現象に着目された。コルナイ ある意味で、控えめに考えました。すべての問題を包括的に扱えるわけではない。「不足」現象そのものは、社会主義経済の数ある問題の一つにすぎません。しかし、非常に重要な問題であることに間違いありません。ですから、この問題に焦点を当てれば、社会主義経済の一般的な問題が反映されてくるはずだと考えました。

盛田 かくして、七〇年代のコルナイ教授の研究は、社会主義経済における「不足」現象の分析に設定されることになったというものでしょうか。

\* コルナイ『反均衡と不足の経済学』（日本評論社、一九八三年）の第三章にその一部が収録。

\*\* 同上、第六章に収録。

## 「不足」の研究

盛田 「不足」の研究を進められる過程で、さまざまなアイデアが生まれた。そのアイデアは一度にではなく、時間を経て形成されてきた。

コルナイ その通りです。一例をあげましょう。需要が供給に比べて大きい、つまり「超過需要」があるから「不足」だと単純にいえます。「不足」現象は多様なもので、「強制代替」もその一つに他なりません。

盛田 欲しい物が無いので、別の物で買わされる。しょうがないから、それで我慢しなければならぬ。それも不足現象の一部。

コルナイ 日本の読者にはなかなか理解できないかもしれませんが。そのような経験がないので。何かを買おうと思ひ、そのためのお金もあるのに、その欲しい物が店にない。仕方がないから、別の代わりになるものを買わざるを得ない。

盛田 市場経済でも、住宅問題などでは同じことが起こりうる。

コルナイ 大都市で住宅の価格規制がある場合には、そのようなことが起こる。住宅不足が顕在化し、人々はやむを得ず住

みたくもないところに住まなければならない。不足経済では、そのようなことが大量現象として生じるわけです。

盛田 しかし、社会主義の不足経済の場合には、すべての物が不足するわけではない。

コルナイ そのところが重要で、一方では売れない品物が店に山積みされていて、他方で多くの必要商品がない。つまり、「不足」と「余剰」が並存している状態がみられます。

盛田 そこが、単純な超過需要状態とは違うわけです。

コルナイ それについて、経済研究所で議論した手稿があります。それは「適応にきしむ機械」と題するもので、うまく機能する経済では適応には何のきしみもないわけですが、うまくない経済ではオイル切れのドアのように、適応にきしみが起きます。そのような議論を展開しました。

盛田 そのような研究を続けられて、「不足」にかんする研究の最初の草稿は、いつ仕上げられたのでしょうか。

コルナイ よく覚えていませんが、七五年頃だったと思います。その草稿は今まで印刷されたり、回覧されたことはありません。それを経済研究所の議論にかけたわけです。うまくいきませんでした。出席者全員がその草稿にたいして苛立ち、ほぼ全員がこの研究に興味がないと述べました。

多くの誤りがあったことは事実ですが、しかしその草稿から

\* コルナイ『反均衡と不足の経済学』（日本評論社、一九八三年）、第四章に収録。

## 『不足の経済学』の執筆

盛田 『不足の経済学』の最終草稿を書き始められたのは、いつでしょうか。

コルナイ 七六年だったと思います。ちょうどスエーデンからの招聘があった時です。というのは、いつも大きな仕事をする時には、ハンガリーに居るよりは外国に居た方が良いのです。少し距離をとることで、物事がよく見えるのと同じです。

盛田 どなたが招聘されたのでしょうか。

コルナイ アーサー・リンドベックです。ストックホルム大学の研究所に招かれ、大学院コースの講義を依頼されました。そこで、毎週一回、早朝に講義しました。一回一回の講義が、後の著書の一つ一つの章になっていったわけです。

盛田 それは非常に効率的に進んだ。

コルナイ 講義ではまだ要約的なメモだったものを、半年の講義が終わる頃には、もう机に座って書きまとめるところまできました。

盛田 講義のなかで、学生の反応はどうだったのでしょうか。

出発して、後の著書を書き上げました。いわば画家が最初のデッサンを描いた時点では、それがどのようなものになるのか、他の人はわからないものです。私自身にも、この時点ではどのようなものになるのか、それほどはつきりしていなかった。

盛田 そこで、さらにいろいろな側面から、「不足」の問題を話めていかれた。

コルナイ その一つの問題に、「不足の測定」があります。この問題で、論文を一つ書きました。この研究をめぐっても、回り道がありました。

盛田 日本語にもなっているものでしょうか。\*

コルナイ はい。その論文を外国の雑誌に送ったのですが、雑誌のレフリー（審査員）の方で掲載を却下しました。意味がないと。

盛田 ハンガリーでも外国でも、なかなか「不足」を研究テーマとして受け入れなかった。しかし、教授はそのテーマを追い続けられた。

コルナイ その点で重要なのは、レフリーに受け入れられるか否かではなくて、自分のおこなっていることが正しいと思うことを、信じ続けることなのです。ですから、聴衆が気に入らないことでも、信ずることをやり遂げる人々は、常に私の尊敬すべき模範となっています。

か。  
 コルナイ 実は、「ソフトな予算制約」\*の概念は、講義のなかで頭に浮かびました。それを一つのたとえとして話してみると、学生の反応が良いわけです。いわばそれに「食らい付いてくる」という具合で。そこで、そのアイデアを彫琢し始めました。

さらに、スエーデン滞在中で、ロンドン経済大学で講演する機会があり、そこでも同じアイデアを話し、次第に全体の思考が固まってきたのです。

盛田 スエーデン滞在中にほとんど書き上げられたのでしょうか。

コルナイ いや、書き込んでいましたが、どのような結末になるのか、よく見通せなかったのです。とくに最後の部分がどうなるか。作家が小説を書き始めても、まだ主人公に何が起きるか作家にも分からないというのとよく似ている。準備ができている部分は、とにかくまとめようという具合で。幸いに、予定の一年を三カ月ばかり延長することができ、そのあいだにほぼ三分の二を完成することができました。

盛田 残りはハンガリーで完成された。それで、著書の題名はどのように決定されたのでしょうか。

コルナイ 英語版については、最初から私の方で、「不足の

める試みをおこなったのです。

盛田 その題名のおかげで、内容的にはとても平易とはいえない書物が、東側の諸国で飛ぶように売れたということでしょうか。

\* 社会主義の国営企業は、政府の補助・救済を当てにできるので、是が非でも予算の制約を守るといふ行動をとらない。その意味で、予算の制約はソフトであり、これが柔らかな経済行動規律となつて現われる。つまり、「ソフトな予算制約」は、経済規律全体のソフト化をひき起こす。

### 社会主義にみられる温情主義

盛田 『不足の経済学』の執筆を終えられたのは、いつでしょうか。

コルナイ 出版まで一年かかりましたから、七九年です。英語版とハンガリー語版が同時に出版されました。

盛田 『不足の経済学』の最終章は、「温情主義」という表題になっています。国が父で、企業が子供というような父子関係（パターナリズム）が、社会主義の基本的な特徴だというアイデアは、どこから生まれたのでしょうか。

コルナイ この発想はかなり以前からもっていました。温情

経済学」という題名を提示しました。したがって、英語版はそのような題名で出版されているわけです。ハンガリー語版については、編集者の方で、端的に『不足』と表現した方が、エレガントだということで、私もそれに同意したわけです。したがって、ハンガリー語版の題名は英語版より短くなったというわけです。

盛田 『反均衡』の場合はどうだったのでしょうか。日本版では『反均衡の経済学』となっていますが、他の外国語ではすべて『反均衡』となっているわけです。

コルナイ それは私が「反均衡」と決めました。これはすぐに決まりました。人の命名が大切なように、著書の命名も筆者にとつてたいへん重要です。『不足』という題名も、事態の本質を表現するものとして、たいへん的確なものだと思っています。

というのも、東側に生活したことのある人であれば、「不足」が何であるかを体験しており、「不足」という言葉を聞くだけで、すぐに実生活を思い浮かべることができるようなものなのです。

ですから、買い物に行った時に、どうして行列に並んだり、強制代替を強いられたり、あるいはまた長時間の待機を強いられたり、売り手に粗末に扱われたりするかを、概念的にま

主義の議論は、たしかノルウェーのオスロで初めて紹介したように覚えています。七三年頃です。ですから、このアイデアは『不足の経済学』の執筆の時点で生まれたものではありませぬ。

盛田 温情主義が社会主義を特徴づける重要な特性だということですが、その点を分かり易く説明していただけませんか。

コルナイ 社会主義のシステムは、指導者・党・政府などの最高指導部が、一般国民に比べてより多くのことを知り尽くしているという前提にたっています。あたかも「神様」のように、賢くかつ全能だと。中世の王様が、民を思い、民に代わって思考したようにです。民は仕える以外に、何もすることがないので。国が父で、国民は子供といつてもいいかもしれませぬ。

盛田 これは倫理的規範にかかわる問題ですね。

コルナイ その通りです。社会主義の温情主義は間違つた倫理規範から出発しているといえます。メシア的な倫理規律から出発しているといつてもよいでしょう。そこでは、国民、国民の自治・主権・自主性がないがしろにされます。

盛田 メシア的とは。

コルナイ この場合、共産党が救世主であり、それが人間を変えていく。人間は馬鹿で無知な存在だが、救世主はこの無知

なるものを実力をもってしても、正しい道に進ませることができ、というわけです。こうして、人権が制限されるのです。比較的最近になって、この考えを人間の自由にかんする問題として、論文にまとめました。たしか日本でも翻訳されたと思えますが。

**盛田** 抄訳として、紹介しています。\*ただ、こうした温情主義は、政治体制の問題になってくるのですが、その点はどのように考えられたのでしょうか。

**コルナイ** 『不足の経済学』を執筆している時点で、ある種の自己検閲をおこないました。つまり、ある一定の線を超えないで、叙述しようと。それを超えると、書物を出版できませんから。

**盛田** その線はどこに置かれた。

**コルナイ** 八九年まで存在していたタブーですよ。けっして触れてはならないものは、一党制であり、憲法で規定された党の役割でした。党の絶対的優位を規定している。

**盛田** すなわち、温情主義。

**コルナイ** ただ、ここでは問題は逆に捉えるべきであって、温情主義は一つの現象にすぎない。真の問題は温情主義ではなく、権力を独占している党なのです。これがタブーだったので。ですから、これには触れなかったのです。

た。フランス語版も出版されました。

**盛田** 中国では一時コルナイ・ブームで、ほとんどの著作が翻訳された。

**コルナイ** 経済改革の進展に応じて、ほぼすべてが出版されています。

**盛田** 恥ずかしいことですが、日本では大部の学術書はとも売れませんが、数冊の薄い論文集で代替させていただきました。ただ、ポーランドと中国以外の社会主義国では、どうだったのでしょうか。

**コルナイ** ソ連、チェコスロバキア、ブルガリアでは、いわゆる抜刷りの形で回覧されました。書店には並ばなかったのですが、手渡しで一定の範囲に流されました。

**盛田** ほぼすべての社会主義国で印刷されたことになりましたね。

**コルナイ** そうです。ですから、「温情主義」を超えてその先を叙述しなかったことで、他国での出版禁止が回避されたと考えています。その判断が正しかったと。

**盛田** ソ連では漸くにして、八九年度の出版物として印刷されるのが決まったようですが、もう出回っているのでしょうか。

**コルナイ** いや、まだです。日本では翻訳が済めば、四、六

**盛田** そうすると、『不足の経済学』は二二章で終わっているが、本当ならば二三、二四章と続くはずであった。

**コルナイ** 100%を述べて書物が出版されないより、真実の80%を述べて出版された方が賢いと考えたのです。書物は「温情主義」で終わっているわけですが、これで問題の最終的な説明要因を与えたわけではありません。温情主義も一つの結果でしかないと考えていたことは、理解していただけたと思います。

\* コルナイ「個人的自由と社会主義経済の改革」(『エコノミスト』六五周年記念増刊号、一九八八年十一月七日号)

### 『不足の経済学』の普及

**盛田** 『不足の経済学』のハンガリーでの出版はとくに問題がなかったと思いますが、他の社会主義国ではどうだったのでしょうか。

**コルナイ** ハンガリーはもともと自由な国の一つでしたから、ハンガリーで出版されるだけでなく、他の社会主義国でも出版されるように願いました。他の国では非合法の出版物にならないようにと。幸いにも、ポーランドと中国で出版され、とくに中国では八万部も売れ、年間ベストセラー賞をもらいました。

週間ぐらいで本屋に並ぶでしょうが、ソ連ではそういうわけにはいきません。正式な翻訳に一年かかり、すでに出版社に一年ほど寝かせてありますが、依然として出版されていません。

**盛田** ソ連の抜刷りはどのように回覧されていたのでしょうか。

**コルナイ** シベリアのアギャンベギャンの研究所が二、三百部の抜刷りを作り、研究所の判断で個別に読書許可を与えていました。今の今まで、『不足の経済学』についてソ連で論評したのは唯一カラゲドフ一人です。彼がそれを書いた時に、即座に党本部から呼び出され、その書物に何が書かれているのか、なぜその書物について書いたのかを尋ねられたようです。しかしながら、一般の出版は許可されなかった。ゴルバチョフ時代になるまで、待たなくてはならなかったのです。八八年に出版許可の決定が下されるまで。

**盛田** 少しくどくなりますが、『不足の経済学』で教授がもつとも強調したかったことは何でしょうか。

**コルナイ** それは、「不足」現象はシステムの特長であるという一点に尽きます。計画機関の誤りなどという問題ではなく、社会主義システムに固有の現象である。換言すれば、不足は社会主義経済の正常な状態である、といえます。したがって、不足を解決したければ、体制を変えなければならぬ。価

格政策や金融政策で変えることができるような問題ではないという事です。

盛田 しかし、それは社会主義一般についていえることなのでしょう。私には二〇世紀社会主義の歴史的な限界が、そこに現われているというようにみえるのです。

コルナイ 二十一世紀には別の社会主義が出てくるかどうか、私には分かりません。そのことは、後でもう少し議論できるかと思いますが、われわれが問題にしているのは、現存の社会主義です。われわれがよく知っている社会主義がそれなのです。共産党の権力のもとで機能している社会主義の、その特性を問題にしているわけです。

### 八〇年代のハンガリー改革

盛田 八〇年代に入り、ハンガリーでは六八年経済改革に匹敵するような改革措置が、矢継早にとられてきました。この八〇年代の改革過程を、教授はどのようにご覧になっていたのでしょうか。

コルナイ 私的セクターの行動範囲の拡大に、主要な変化の方向があるとみていました。それがもつとも重要な変化でした。政治的には反対派の活動の余地が広げられ、政府や党とは

違ふ見解も、公になってきました。国营企業に自立性を与え、銀行制度を再構築し、価格体系に変化を与える方向に、改革が進みました。しかし、これらの変化が大きな影響をもちうるとは考えませんでした。

盛田 この時期に、ハンガリーの経済改革にかんする長文の論文を二本書かれています。一つは八三年に、もう一つは八六年に。

コルナイ 前者はインディアナ大学で講演したもので、法学大学のセミナーでも報告したものです。\*後者はアメリカ経済学会の機関誌に掲載されたものです。\*\*この双方の論文とも、ハンガリー改革過程を批判的に評価しています。つまり、直接的な官僚的介入に代わって、間接的な官僚的介入が生じていると。

盛田 六八年の改革によって、ハンガリーでは政府が企業にたいして、直接に生産課題を指示する制度は廃止された。

コルナイ 「指令経済」と呼ばれたシステムは廃止されたわけです。個々の企業が何をどれだけ生産するか、どの企業がどの企業から何をどれだけ売買するかについて、政府の指示がなくなりました。しかし、それに代わって、何千もの別種のミクロ的な官僚的規制が作られ、「ソフトな予算制約」状態も続いていました。

盛田 ということは、経済改革の積み重ねにも限界がある。

コルナイ 八六〇八七年あたりで、その限界に達した。つまり、システムの基礎を残し、部分的な調整を図るという意味での改革は、その限界に達した。これを超えるためには、根本的な政治の転換が必要になるわけです。

盛田 その限界にいたるまでの改革は、ある程度まで成功したものだったと評価できるでしょうか。

コルナイ それほど成功的とはいえません。七八〇九年までは生活水準も向上していますが、それは私的セクター、私的農業、第二経済の発展によるものです。その他面で、ハンガリーの国際環境が悪化し、貿易収支が芳しくなく、インフレが進行することになりました。七九年以降、ハンガリー経済は停滞し、経済状態の悪化が始まりました。債務の累積のために、投資も控えられました。

盛田 それにつれて、人々の信頼感が急速に失われていった。

コルナイ 政府と党の約束を、人々は次第に信じなくなりました。そこから、国内の政治情勢が先鋭化してきたわけです。そして、それが最終的には、八八〇八九年の政治的変動となっていったのです。

盛田 その八九年にはハンガリーだけでなく、他の東欧諸国

にもたいへんな変動が起きたわけですが、教授はこれをどのようにみられているのでしょうか。

コルナイ これは世界的な重要性をもつ出来事です。一つの古い歴史が終わり、新しい歴史時代が始まるという。

盛田 それは改革ではなく、革命です。

コルナイ 改革はある制度のなかに留まり、それを変えていくもの。革命はある制度から別の制度への転換です。その意味で、八九年の東欧に生じたものは、革命なのです。

盛田 その革命が達成したものは、何でしょうか。

コルナイ 共産党の権力独占の消滅です。憲法に規定された共産党の役割の消滅です。これによって、所有改革が始まり、実際の市場経済が構築される出発点が築かれたのです。

\* コルナイ「経済改革の現状と展望」(『経済改革の可能性』岩波現代選書、一九八六年、第二章)。

\*\* コルナイ、盛田訳「ハンガリー改革と市場社会主義」(『エコノミスト』一九八六年十一月二一日号)。

### 市場社会主義の限界

盛田 八六年の論文で、経済改革の限界を指摘するために、いわゆる市場社会主義の不可能性について論じておられる。こ

の点を少し詳しくお話しただきたい。

コルナイ その論文では、社会主義の可能性にかんする一九三〇年代の有名な論争に触れています。

盛田 社会主義経済で合理的な経済計算が可能か否かをめぐる「経済計算論争」。

コルナイ 論争の一方の論客は、オーストリアのミーゼスと彼を継いだハイエク（一九七四年ノーベル経済学賞）です。彼らは私的所有が廃止された社会主義では、正確な経済計算は不可能だと論じました。もう一方の論客はポーランド人経済学者で、後にシカゴ大学教授になったランゲです。価格当局なり計画当局が、市場をシミュレートすれば、公的所有のもとでも市場的計算は可能であると論じました。この考え方は「市場社会主義」と名づけられたわけです。

盛田 スターリン型の社会主義とも違う、別種の社会主義。

コルナイ 資本主義とも違う市場経済という意味で、第三の道になるわけです。それが経済改革の中心的な発想の基礎になつてきた。

盛田 コルナイ理論によれば、それは不可能である。

コルナイ 公有は必ず官僚的介入を招くので、市場的な仕組みを機能させることはできない。ですから、私は「市場社会主義」を幻想であることが証明された理念だと述べたのです。現

実を直視すれば、これは実現しない。実現できない理念なので

盛田 その点に関連して、「ソフトな予算制約」について少し議論したいのですが、国家が常に企業の擁護者として機能する限り、企業は自立できない。したがって、甘えの行動が経済全体の規律を損なうこととなります。そうすると、国家が企業の保護者であることを止めるまで、これは直らないということになる。

コルナイ 「ハードな予算制約」があれば、経済主体は独立せざるをえない。自らの収入と支出によって経営を成り立たせるわけで、損失が続けば倒産するだけです。ただ、現代の資本主義社会でも、ある程度の「ソフト化」が進行しています。経済主体の損失を国家が肩代わりするところでは、どこでも「予算制約のソフト化」が進行します。

ただ、資本主義と社会主義の違いは、赤字企業の救済が社会主義では日常茶飯の出来事である点です。

盛田 常に国を頼りにできれば、市場的な規律・強制力が働かやうがない。

コルナイ ハードな予算制約のもとで、損失に陥れば、すべてが終わりです。ところが、国が面倒をみてくれるという安心感があれば、何も強制力を感じないわけです。市場でよい位置

を占めるように努力するより、補助を獲得するために、国の機関と交渉した方がとっとり早いのです。「国は良い兄弟」とは、ハンガリーの諺です。

盛田 ここから、経済全体の「ソフト化」が始まる。

コルナイ そう。したがって、改革され自由化された社会主義国家が、損失企業を救済し始めることはいへんまじいことです。救済といっても、どこからか取ってきて、渡すわけです。昔であれば、農民や優良企業から、損失企業へ移転するわけです。

こうした方法と違った形で、改革された社会主義国家が企業を救済しようと思うと、今度は国家財政のソフト化が生じるわけです。

盛田 国の予算も企業の子算もソフト化し、その結果、インフレが止まらなくなる。

コルナイ すべての社会主義国の財政赤字は、損失企業の赤字補填からきているのです。それが現在のインフレの原因であることはあきらかです。ですから、国家機関が経済を管理している限り、予算制約はソフトなままで、市場は機能しないので

### 三つの革命と人生の転機

盛田 これまでのお話を通して、六三年間のコルナイ教授の人生を振り返ってみると、大きな転換点があった。少なくとも二度の「革命」があった。

コルナイ 八九年を入れると、三度目です。ある意味で、一九四五年も私にとって革命でした。ただ、私の人生における大きな転換点と、政治的な事件という意味での革命とはつきり区別することが難しいと思います。

盛田 人生における「革命」はどこにあったのでしょうか。

コルナイ 私にとって、最大の事件は一九四五年でした。もちろん、四五年には経済制度そのものに変化はなかったわけですが。その時点では、社会的な意味での革命ではなかった。しかし、ナチに代わって、民主的な複数政党制ができ、戦争に代わって平和が到来しました。今でも、四五年は人生のなかでもっとも重要な日付のひとつです。

盛田 それはコルナイ教授の人生にとって、最初の「革命」であった。

コルナイ 父の人生にはクン・ベラ\*の革命、つまり一九一九年のハンガリー社会主義共和国の樹立がありますが、私に

81 わが思想と経済学

はたしかにこれが最初の「革命」でした。ただ、実際の社会の制度的改変は四九年に起こったわけです。そこに、私も参加した。それから、五六年の革命と敗北があります。

盛田 社会的な革命という意味では、四八―九年の社会主義体制への移行、五六年の「人民蜂起」、それから八九年の共産党独裁の終焉ということになります。

コルナイ 五六年には一〇日間のうちに、二度の変化があったわけです。最初は共産党主義体制から複数政党制へ、それから数日して再び元に戻りました。

盛田 その五六年の「動乱」にかんしては、「革命」か「反革命」かで議論があった。

コルナイ ハンガリーでは多くの人が、その用語法について語っていますが、私自身はそのような議論を好みません。好き嫌いにかかわらず、一つの制度から別の制度に移行すること、革命と呼ぶのです。「勝ち」、「負け」は政治的な意味合い、評価の問題です。個人は単純に制度の転換としてしか使えません。

盛田 コルナイ教授の個人史のなかで、その思想の大きな変化は五六年に生じたといつてよいのでしょうか。

コルナイ 思想体系は五三年から五六年にかけて、変化していった。つまり、スターリンの死後、二―三年のあいだに生じ

ける社会主義革命の指導者。

### 『感情的ピラ』の出版

盛田 昨年暮れに出版された『感情的ピラ』と題する経済政策提言は、ハンガリーの各方面でさまざまな議論をひき起こしています。これはどのような経緯でお書きになったのでしょうか。

コルナイ 自由民主連合\*に属する経済学者が私の考えを述べるように要請しました。私自身はこの党にも属していませんし、これからもそのつもりはないので、多くの野党代表を集めていただくように提案しました。

盛田 どのような党の代表が集まったのでしょうか。

コルナイ ハンガリー民主フォーラム、小地主党、社会民主党、キリスト教民主人民党、歴史公正委員会などの代表が集まりました。現在の政府を構成している社会党や党に属していない人々も集まりました。そこで、一時間半ほど話し、議論したわけです。

盛田 その時の講演と議論をもとに、小冊子を準備された。

そのなかで、どのような問題を提起されたのでしょうか。

コルナイ 三つのテーマがありました。一つは所有関係の問

ました。一〇代の共産主義者が、スターリンが死んだ時には二五歳でした。その時期に世界観が形成されています。その転換が五三年に始まったわけです。

盛田 二度めの「革命」が。

コルナイ 「革命」とは呼びたくないのです。自らの思想の転換、そう「転換」なのです。それ以後、思想体系は変化していません。自らをより正確に表現できるようになったという以外は。

盛田 これまでのお話から、コルナイ教授は五六年以後、一切の政策的活動から身を引かれ、理論分析の活動に専念されてきた。ところが、昨年八九年、突然に具体的な経済政策提案をおこなわれた。それはどういう動機からなのでしょう。

コルナイ これまでの政府には協力しなくなかったので。経済政策の提言には、政府と顧問のあいだに信頼関係が必要です。信頼があれば、提言の価値があります。

盛田 その信頼の可能性が出てきたということでしょうか。

コルナイ いや、現在の政府にたいする提言ではないのです。自由選挙の後に形成される政府にたいするものなのです。私の考えが変わったのではなく、ハンガリーの政治情勢が変わったのです。そこに新たな可能性を見つけたからです。

\* ハンガリー共産党の創設者で、一九一九年のハンガリーにお

題、二つは経済安定化の問題、三つは経済政策を遂行するうえでの政治的条件です。この三点について、私の考えを述べたわけです。

盛田 それぞれのポイントをお話しただきたいのですが、まず所有関係の問題では何を強調されたのでしょうか。

コルナイ そこで最大の課題と考えたことは、私的所有と私的イニシアティブの自由の保証です。「私有化」とは同義ではありません。現在でも、私的所有や個人営業が存在しているわけですから。

私の強調したことは、私的営業や私的イニシアティブの完全な自由化であり、官僚的規制の撤廃なのです。「自由参入」を保証することなのです。

盛田 それに関連して、国営企業の処理についても提言しておられる。

コルナイ それが所有問題の第二点目です。国営企業の経営者は本当の「企業家」ではありません。ですから、彼らに完全な自由を与えてはならないのです。これまで、国営企業に完全な自由を与えるべきだという議論がありました。自由を与えてきたとしても、それを監視する必要があります。企業家精神をもたない経営者が、貴重な資源を無駄にすることは目にみえてくるからです。

**盛田** それは私的営業にさまざまな資源を融通するうえで、不可欠であると。

**コルナイ** 私的営業を育てるうえで、そのことは重要ですが、それに付け加えていえば、さらに国营企業の私有化を進めることです。これらの政策を通して、真の企業家層を育成することが重要だと考えます。

**盛田** 安定化政策については、どのような提案をなされたのでしょうか。

**コルナイ** 今まで何が問題だったかといえば、個々の政策措置がバラバラに実行されていることです。系統的でないばかりか、一度に処理していないのです。一定範囲の価格を引き上げ、後はそのままにしておく。価格を変えても、租税制度は変えない。あるいは、租税制度を変えながら、価格改定をおこなわない。これらの政策が措置を調和的に一挙に進めないと、成功しないのです。ですから、私は「手術」という用語を使っています。手直しではなく、手術が必要なのだ。

**盛田** 自由民主連合の経済学者タルドシュ・マルトンは、コルナイ教授の提案にたいし、手術の前に病人の健康状態をよくみなければならぬと述べています。いろいろな病気をもっている場合に、すべての手術を一度におこなうことはできないと。

ようか。

**コルナイ** インフレ抑制の鍵は、需要サイドにあります。需要面、したがって貨幣供給を抑制し、賃金をその枠内に留めておき、価格を自由化すればよいのです。その時に生じる価格上昇はインフレではありません。上昇した価格水準で、均衡が保たれるはずで、需要規制を緩めると、インフレが始まるのです。

**盛田** そこまでくると、後は政治的な許容度の問題になってきますが、とくに賃金凍結は。

**コルナイ** それは難しいでしょうが、ポーランドでは労働組合が賃金上昇を放棄する点で、合意しました。それ以外には、経済状態が悪化するだけなのです。ハンガリーでも、これからできる政府と労働組合のあいだで、こうした協定を結ぶ以外に道はありません。

**盛田** コルナイ教授の提案では、すべてのことを一挙に実現しなければならぬ。

**コルナイ** 「一度に」やる方が、問題を早く解決するので、一度にやらないから、全体を駄目にする。価格を上げて、すぐに賃金が上がっていけば、これは何にもならないわけです。くだいようですが、マクロ需要を規制して、価格を自由化する以外に方法はないのです。

**コルナイ** それには同意できません。ハンガリーは手術に耐えうる病人なのです。ハンガリーより悪い経済状態の国だつて、回復しているのです。

\* ハンガリーの第二党。これまで在野にいた知識人が主体になっている政党。

#### インフレ、財政赤字、累積債務

**盛田** 現在、東欧諸国はインフレ、財政赤字、累積債務に悩んでいます。コルナイ教授の提言は、これら共通の問題に苦しんでいる国々にたいする提言でもあるわけです。経済安定化政策のうちで、インフレについてはどのような政策を主張されているのでしょうか。

**コルナイ** 一度限りの価格上昇と、連続的な上昇（スパイラル）を区別する必要があります。ハンガリーで私が主張するような手術をおこなう場合、需要を抑えなければなりません。したがって、賃金の凍結と信用供給の凍結が必要になります。

財政が均衡してくれば、後はマクロ的需要を規制するだけでよいはずで、その時になれば、価格を一度に自由化してよいのです。

**盛田** その場合に、再びインフレが始まる危険はないのです。

**盛田** 安定化政策で最大の問題は、対外累積債務です。この解決にはどのような提案をされているのでしょうか。

**コルナイ** 短期的な解決策はわかりません。しかし、この問題がハンガリー経済の中期の発展に深刻な影響もっていることは否定できません。この問題では債権者との協議、債務軽減、返済期限の延長などが必要だと思います。もちろん、ハンガリー政府の側では債権者、国際機関の信頼を損なうことのないように心掛けなければなりません。いずれにしても日本を含めた先進経済諸国の理解と支援が不可欠です。

**盛田** 他の東欧諸国とハンガリーとのあいだで、共通している問題と、それぞれ独自の問題はありますか。

**コルナイ** 所有の改革は共通問題です。東ドイツは統一によって、この問題ではかなり違ったアプローチが可能で、西ドイツの企業が乗り込んでくれば、かなり早く解決されていくでしょう。その意味で、東ドイツは特別な状況にあります。ただし、その場合でも、私有化プロセスが完了するまで、国营企業をどのように掌握していくかは、共通の問題です。

それから、インフレの危険も共通しています。価格上昇率にはかなりの違いがみられますが、インフレ圧力がある点は共通しています。自由度が高まり、抑圧が弱まれば、労働者の組織力は強くなり、賃金引上げ要求も高まります。これは共通の問題



題です。

**盛田** 相互に異なる問題は何でしょうか。

**コルナイ** それは累積債務の大きさです。これまで、国内的な抑圧体制が強い国々では債務が少なく、改革されて自由度が高かった国々で債務が多い状態になっています。

つまり、チェコスロバキアやルーマニアでは、借金せずに国民の窮乏を強いたのです。他方、ポーランドやハンガリーでは政府が国民と対決を回避し、柔軟な態度をとってきたのです。

**盛田** しかし、経済基礎力のない諸国が国際金融の世界に入れば、同じように債務の累積に悩むようになるのではないのでしょうか。

### これからの課題と人生の教訓

**盛田** コルナイ教授はほぼ一〇年ごとに、大きな書物をお書きになってきた。一つのテーマに、一〇年の時間が込められています。これからの一〇年、教授は自らにどのような課題を課せられているのでしょうか。

**コルナイ** 三つの課題があると考えます。その第一は、社会主義システムがどのように動いており、また動いてきたかを叙述することです。

これまでこれなかったことははつきりしています。彼女は常に私の著作の最初の読者でした。

**盛田** もう何年ご一緒になりますでしょうか。

**コルナイ** 彼女とは二度めの結婚で、およそ二〇年になります。

**盛田** 学問上で影響を与えた人々はどうか。

**コルナイ** それは数え切れませんが、マルクスが大きな影響を与えたことは否定できません。しかし、それと同じくらい、ケインズ、シュンペーター、ハイエク、フリードマン、アローの思考が、影響を与えました。とくに、アローとクープマンズにたいしては、科学者としての人物の大きさに、たいへん畏敬の念を抱いています。

**盛田** 生きていく上での哲学で、影響を与えた人々はどうかでしょう。

**コルナイ** それはバルトック・ベーラです。その生き方の厳しきについて、学ぶことが多いのです。人が何を言おうと、自らの道を進むという強さです。

**盛田** それは自らの生き方を映しているからでしょうか。

**コルナイ** 同じと言えば、大それています。一つの模範というべきでしょう。つまり、一つの原理があり、その原理を一貫して追求するという姿勢です。私にとって、その系統性や一貫

**盛田** それは過去のシステムととっても、意味はある。

**コルナイ** 過去の歴史となくなってしまっても、そのことには意味があります。ただ、現在もなお人間の三分の一はこの体制に生きていくわけですから、これを総括することには意義があります。それについて、一冊の本を仕上げたい。

それから、折に触れて、ハンガリーの経済状態について、発言していきたい。

**盛田** それはどこかのアドヴァイザーとしてでしょうか。

**コルナイ** いや、私は政治家になりたくありませんし、党の代表にも、政府の閣僚にもなりたくありません。一人の責任ある市民として、発言していきたいのです。政府の気に入らなければ、在野政党が取り上げてくれるでしょう。複数主義の時代になるわけですから、どのような形でも自分の意見を表現する場を見つけられると思います。

**盛田** まだ課題があまりでしょうか。

**コルナイ** 若い研究者を育てることです。外国でもハンガリーでも、自らをコルナイの弟子と考える若い研究者が多くいます。その人たちの成長に、参加していくことです。

**盛田** これまでのコルナイ教授の人生のなかで、もっとも大きな影響を与えた人々の名前を挙げていただけるとでしょうか。

**コルナイ** 妻のダニエル・ジュジャです。彼女なしには、こ

性がたいへん大切なものでした。

**盛田** ハンガリーの経済学者のなかには、影響を与えた方はいらっしやらないのでしょうか。リプタークとは数理経済学と縁を切ったときに、仕事の縁も切れたのでしょうか。

**コルナイ** いや、病気にかかり、仕事を続けることができなくなったのです。それから、市場を重視すべきことに注意を向けさせてくれたのは、ピーター・ゾルジュでした。

**盛田** 中央統計局長官だった。

**コルナイ** 残念ながら六八年のチェコスロバキアへのソ連軍侵入に抗議して拘留され、自殺か他殺かわからない状態で命を失いました。その他、ハンガリー学派の同僚たちからは、大きな影響を受けていることはいうまでもありません。

**盛田** 個人的な関係までお話しいただきました。長時間の相手、ありがとうございます。

### 定価改定のお知らせ

印刷・製本費ならびに諸資材価格高騰のため一九九一年一月号より、本誌定価を左記の通りの改定を余儀なくされることになりました。ご了承賜りますようお願い申し上げます。

新定価 九二〇円

年間購読 一、〇四〇円